



2018年 7月6日 金曜日
(平成30年)

技の創造

ものづくり大学発

▷36◁

近年、東南アジア諸国連合（ASEAN）は、世界経済の平均を上回り、多様な路線がASEANの安定成長を支えている。その中で経済成長が最も遅れたミャンマーは、低コスト労働力の活用の余地が大きいラストフロンティアとして世界各国から投資を集め始めている。

■ミャンマーで実施

このような背景の下で、2017年1月に国際協力機構（JICA）の政府開発援助（ODA）による「ミャンマー連邦共和国日本水準の建築技能訓練者育成プログラム」を実施している。

教育訓練の内容は、ビルディングおよび木造建築における日本式の施工管理技術と高度な技能の習得を目指すもので、ミャンマーでの現場施工（日）は、Site EngineerおよびSupervisorの技術・技能を底上げを図るための「21世紀のASEAN圏での日本のゼネコンやサフコ」が中心となる。招きものつくり大学の教員

■全5期のカリキュラム
STCにおける教育カリキュラムは全5期から成り、1期目（17年1月19日～3月10日）は、現場人講師を育成して、2期目（17年4月10日～6月10日）は、Site EngineerおよびSupervisorの技術・技能を底上げを図るための「21世紀のASEAN圏での日本のゼネコンやサフコ」が中心となる。招きものつくり大学の教員

三原 斉 建設学科教授

日本式技術技能教育の国際化



みはら ひとし 近畿大学理工学部建築学科卒業。工学院大学大学院工学研究科博士後期課程修了。博士（工学）。一級建築士・二級建築士。土木建設株式会社東京本社建築部工事課所長、購買課長、建築工事課長を経て、2001年4月ものつくり大学開学と同時に着任し現職。専門は、建築生産、建築構造、建築技術技能教育。

の進展の一助となり、ミャンマーで行われた。

ミャンマーで同事業によつて育成された人材を活用し、現場のゼネコン組織（月30日）以降は、Supervisionは、91人の修了生と2人

sortを育成するための「技能の訓練参加者の計93人が修了した。現在、IV期目（18年5月5日から4カ月間）、V期目（18年10月から4カ月間）を実施している。すべての事業プログラムの終了後、同事業は労働省に移管され、運営されることになる。

■Win-winの関係に
現在、私は日本側のJICAカウンターパートナーの教育訓練責任者を務めており、修了生たちにはぜひ、ミャンマーの日系企業の下で活躍してほしいと考えている。そうすれば両国にとってWin-winの関係になる。日本の技術と技能は、ミャンマーにとって必要な部分となじまない部分があると思う。取捨選択しながらうまく活用して、日本の建築技術・技能を広めてもらいたい。

埼玉経済

企業、団体、商店街などの話題や情報をお寄せください
TEL 048-7955-9166 FAX 048-653-9040
ikeizai@saitama-np.co.jp